

第22回

全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラム

報告書

2025.8.30(土)-31(日)

兵庫県開催

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス

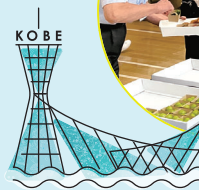
1
開会挨拶
シンポジウム①

2
シンポジウム②
情報交換会

3
ポスターセッション
・パネル展示

4
分科会

5
学生の活躍



参加者合計 **461** 名

- ・シンポジウム 334名
- ・SDワークショップ 58名
- ・情報交換会 241名
- ・ライフロングキャリア共創セッション 52名
- ・分科会 131名

大学コンソーシアムひょうご神戸 計 **331** 名

- ・加盟校教職員 24校146名
- ・自治体 10自治体27名
- ・加盟校学生 12校74名
- ・一般 8名
- ・企業 33社59名
- ・コンソ職員 17名

他エリア 計 **130** 名

- ・大学教職員 79名
- ・自治体 6名
- ・学生 10名
- ・コンソ職員 23名
- ・企業 12名

共催

全国大学コンソーシアム協議会、
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

協力

神戸学院大学(会場校)

後援

文部科学省 / 一般社団法人国立大学協会 / 一般社団法人公立大学協会 /
一般社団法人日本私立大学連盟 / 日本私立大学協会 / 全国公立短期大学協会 /
日本私立短期大学協会 / 全国知事会 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 読売新聞社 /
日本経済新聞社 大阪本社 / 一般社団法人共同通信社 / 兵庫県 / 神戸市 /
神戸新聞社 / 神戸商工会議所 / 一般社団法人兵庫県経営者協会

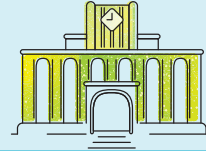
テーマ

激変する将来社会を切り拓く
新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

開会挨拶／シンポジウム①

ご挨拶



フォーラム 開会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊 氏
(関西学院大学 学長)

大学コンソーシアムひょうご神戸は、2006年に「県下すべての大学によるすべての大学のための」組織として設立され、本年で20年目を迎える。国際性を軸に留学生インターンシップや相談窓口等を継続しており、東日本大震災復興支援や「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」による防災啓発にも取り組む。少子化やAIの進展等、変化の大きい環境下で、人材育成には産学官協働が不可欠であり、教育の本質を守りつつ革新を取り入れる「不易流行」の姿勢が求められる。本フォーラムは、大学間連携の役割を見つめ直し、多様な立場から意見交換を行う機会として開催する。



フォーラム 開会挨拶

兵庫県副知事
服部 洋平 氏

フォーラム 開会挨拶

全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 小原 克博 氏
(大学コンソーシアム京都 理事長、
同志社大学 学長)全国大学コンソーシアム協議会
代表幹事 川野 祐二 氏
(エリザベト音楽大学
理事長・学長)

情報交換会 開会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事 備酒 伸彦 氏
(神戸学院大学 学長)

情報交換会 乾杯挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸
副理事長 藤澤 正人 氏
(神戸大学 学長)

シンポジウム①話題提供

テーマ 大学間連携と地域共創

～社会変革期におけるコンソーシアムの可能性～

演名理事から冒頭、中教審「知の総和」答申で、大学間連携の必要性が高まっており、大学を「地域課題解決に資する知の拠点」と位置づけ、地方自治体や産業界との連携による共創の場となることが求められているとの説明がありました。

吉見先生からは「人口減少とAI化のなかの大学の未来」というテーマで、AIによる「知の総和」答申の分析の披露から、日本の大学の置かれている危機的状況や、教育の質向上が不可欠であること、そのために必要な大学改革、文理融合ではない文理複眼教育の姿、リカレント教育の本質化のための高等教育の転換、最後に、今後の大学のミッションである「地球人の育成」のため大学と地域はどうあるべきか等、多くの示唆に富んだ話題提供がありました。

続いて岡田氏からは、ご自身の事業承継と新たな事業創出における経験を通じた、産学官連携の可能性と課題についてお話があり、次に島藤氏からは、企業における人材育成の現状紹介と、大学が地域、企業と連携して提供する新たなリカレント教育モデルについて提案がありました。

最後に登壇した本荘氏からは、立ち上げ時から関わってこられた「大学コンソーシアムひょうご神戸」について、いくつかのターニングポイントとご自身の経験を紹介され、コンソーシアムのあるべき姿についてお話をいただきました。

登壇者 日本テクノロジーソリューション株式会社
代表取締役社長 岡田 耕治氏エクスアールジョン株式会社
代表取締役 島藤 真澄氏國學院大学 観光まちづくり学部 教授 吉見 俊哉氏
東京大学 名誉教授関西学院大学
学生活動支援機構事務部 部長 本荘 雅章氏大学コンソーシアムひょうご神戸
理事(関西国際大学 学長) 濱名 篤氏1 開会挨拶
シンポジウム①2 シンポジウム②
情報交換会3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

シンポジウム②／情報交換会

シンポジウム②
ディスカッション

まず、質疑応答では、日本の高等教育が欧米キャッチアップ型で形成されてきたことの経緯や、AIの抱える問題点とその限界についてのお話がありました。さらに、大学教育においては学生が「AIより自分自身の回答が正しい」と思える論争力や経験力の育成が重要であるとの指摘がありました。続いて、自治体・大学・産業界が教育について議論する際には、その地域の未来を見据えたビジョンが必要ではないかとのお話がありました。

その後の意見交換では、市場原理主義の行き着いた結果としての東京一極集中(東京ブラックホール論)に関する話題が提供され、これを中心に議論が進行しました。大学と産業界の連携において、コンソーシアムは、どのようなストーリーを紡ぎ出せるのか、また、どのように大学と産業界との時間軸の違いを仲立ちできるのかについて言及がありました。さらに、産業界や自治体と大学を結ぶコンソーシアムについては、主体性をどこに置くのかや、アカデミックとしての価値をコンソーシアムが提供してほしいとの意見が出ました。地域と大学間連携については、持続可能性が重要であり、兵庫県を始め地方にはそういった意味での価値があること、そしてコンソーシアムと企業連携には、地域の共通課題の解決に向けて「共創」を意識することの重要性が再確認されました。

アンケート
から

「AIとの付き合い方」や「これからの大学コンソーシアムの役割」等、有識者の多様な視点に触れられたことが大きな学びとなったとの声が多く寄せられた。特に、吉見先生による「大学は人生で3度通う場である」という提起や、「学生の潜在力をどう伸ばすか」という問いかけは、大学の存在意義を改めて考える契機となった。また、AIを盲信するのではなく、人間の知とどう共存させるかという視点も印象に残ったとの意見が多く見られた。

さらに、企業経営者から語られた「早い段階でジャンルを決めず、まず挑戦してみる姿勢」「スピード以外の軸で物事をとらえる重要性」等は、学生教育や大学運営にも示唆を与える内容として高く評価された。

そのほか、「産官学が交わり新たな価値を生み出すことの意義」や、「大学間連携の今後の方向性を深く考える機会となった」という声も寄せられ、大学・企業・行政の立場を越えて交流できたこと自体が、今後の活動の糧になるとの感想が目立った。全体を通じて、登壇者の知見や多角的な議論は「参考になった」「自団体の取組に活かしたい」と前向きに受け止められており、シンポジウムは大学の未来と社会との接点を考える有意義な場として高い評価を得た。

第22回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて
～情報交換会～



情報交換会



全国から集まった大学・コンソーシアム関係者や企業、地方自治体の皆さまを迎えた立食形式の情報交換会は、鏡開きで華やかに開幕。続いて、灘の酒リブランディングに取り組んでいる神戸学院大学の学生が乾杯用の日本酒を配布し、会場の一体感を高めました。

兵庫に根差した企業によるブース出展等では、地元ならではの料理や飲料が振る舞われ、参加者は味覚を楽しみながら交流を深めました。ポスターセッションや学生司会によるレクリエーションも加わり、和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。

アンケート
から

様々な気づき、出会いがあり、有意義かつ楽しい場であった。コンソーシアムは大きな可能性があり、大学、企業、自治体が共にどう活用していくかが問われている。地域の持続可能性を確保する上で欠かせないと感じた。

情報交換会では沢山の大学職員、企業の方とお会いし、留学生支援のネットワークを構築できた。

1 開会挨拶
シンポジウム①2 シンポジウム②
情報交換会3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

3 ポスターセッション・パネル展示

開会挨拶
シンポジウム①2
シンポジウム②
情報交換会3
ポスターセッション
・パネル展示4
分科会5
学生の活躍

ポスターセッション

各大学コンソーシアムが主体となった教育連携や地域貢献の取組を11団体が紹介。大学関係者に加え企業や学生等多くの方々が来場し、展示内容をじっくり見学するとともに活発に意見交換や情報共有を行いました。各コンソーシアムの先進的な事例や、創意工夫に富む多様な活動に触れる貴重な機会となりました。

【出展団体】いわて高等教育コンソーシアム、大学コンソーシアムやまがた、大学コンソーシアム八王子、公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム、公益社団法人 大学コンソーシアム石川、公益財団法人 大学コンソーシアム京都、特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪、大学コンソーシアム岡山、一般社団法人 教育ネットワーク中国、一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

アンケート
から

時間が長く設定されていたので、他エリアのコンソの方々とじっくりお話をすることで、他のコンソの活動方針の多様さ等を勉強することができた。連携の可能性も感じられ、大変有意義だった。

多くの大学関係者にこのようなフォーラムに触れて新しい気づきが生まれるよう、私も大学や自分のコンソーシアムに戻って発信する。全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの価値の高さを社会に向けて発信をお願いしたい。



パネル展示

展示テーマ 兵庫から発信する大学間連携や産官学連携

大学コンソーシアムひょうご神戸に加盟する14校1団体23ブースが「大学間連携」「産官学連携」「『震災30年』阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ、大学の活動について」の3テーマにて発信。コアタイムには多くの来場者が足を止め、パネルを読み込みながら議論や質問を交わす姿が見られました。学生も積極的に説明に立ち、参加者の関心を惹きつける姿勢が印象的でした。 ※地域活性化に資する人材育成を目指す、学生交流委員会事業として実施。

【出展大学・団体】明石工業高等専門学校、大手前大学、関西国際大学、関西学院大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学、一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

アンケート
から

震災30年を迎えて兵庫県、神戸の大学の災害の学びと啓発活動を続けておられることに感銘を受けた。地震災害は悲劇だが、地域に住まう人々の人的資本の価値を問う試練なのだと感じた。

各大学での取り組みがわかりやすくまとめられていて、地域共創科目やサービスラーニング科目等とても興味深かった。また解説学生の、熱心で丁寧な様子が印象的だった。本学のオープンキャンパス等の発表の場の参考にしたい。

兵庫県からの受託事業

～若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」～

阪神・淡路大震災から30年。あの日の教訓を次世代へとつなぐため、震災を知らない世代の学生たちが、取材や調査を重ね、防災・減災啓発の動画を企画・制作。地域社会や全国に向けて発信しています。



分科会



第1分科会 公益財団法人大学コンソーシアム京都

産学官オール京都での留学生誘致の推進
～留学生の定着に向けて～

はじめに、コーディネーターから留学生政策の推移および大学コンソーシアム京都の海外留学派遣プログラムの実績について紹介がありました。続いて、行政・大学・企業それぞれの立場から、留学生受け入れに関する施策や、留学生の就職支援、外国人材の定着に関する現状と課題、具体的な取組事例について報告がありました。その後の質疑応答では、留学生を地域で受け入れるための課題や施策、就職支援のあり方等について活発な意見が交わされました。



アンケートから

総じて、「留学生」と一括りにするのではなく、個々人の文化的背景や諸事情に配慮した支援が必要であると再確認できた。これは、外国人留学生に限らず、学生支援の観点からも共通する内容である。

当市においては、技能実習生による労働力の確保しかできていないが、高度人材の確保は今後の課題となるので大いに役に立った。

1
開会挨拶
シンポジウム①2
シンポジウム②
情報交換会3
ポスターセッション
・パネル展示4
分科会5
学生の活躍

第2分科会 一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎

共創で描くりカレント教育の未来

～共に学び・共に地域を創る場をどのようにして構築するか～

はじめに、コーディネーターより、リカレント教育の現状等について、全体像を捉えるための導入的な説明がありました。続いて、3名の報告者より、①「リカレント教育とは何か」という基本的な定義、現在直面しているリカレント教育の課題等について、②大学と地域が連携して取り組む実践的なプログラムの紹介について、③企業の立場から見たリカレント教育の意義、導入に際しての工夫や留意点等について、それぞれ報告がありました。また、質疑応答では、リカレント教育のアウトカムやオンライン教育の活用等が話題となり、熱心な議論が交わされました。リカレント教育を学問的な側面と実践例の両方から理解を広げ、リカレント教育のこれからを参加者と報告者がともに考える機会となりました。



アンケートから

リカレント教育の鍵はアンラーニングであり、学生と社会人が共に学び合う場が重要になる。教育を教えることと捉える見方からの脱却が不可欠だと感じた。教育に対しての考え方が変わった。

梶原さんの「光合成」というワードが大変しっくりきました。また、どこを動かすとうなるのか。誰がどう思っているのかなど、たいへん参考になった。

第3分科会

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

【TKK3大学連携事業 15周年企画】

阪神・淡路大震災から30年

「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」

TKK(東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学)3大学連携プロジェクトとして、防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の取り組みが紹介されたのち、TKK3大学に加えて金沢大学、熊本学園大学の5名の学生より、防災・減災・ボランティアに関するそれぞれの活動について発表がありました。その後の意見交換では、学生が防災等の活動へ参加することへの意義や期待、大学が学生の活動をどのように支援できるか、またこれらの活動を学生教育にどのように繋げていくかについて議論されました。



アンケートから

学生の活動報告内容が、今後の業務・学生支援のために有益であったと思う。

他大学と連携して被災地を支援する仕組みがあること、実際に活動した学生の話聞いたことが、とてもよかった。この活動に参加できるよう加盟校に働きかける動きを取りたい。

学生の活躍

学生ステージ



流通科学大学の外国人留学生8名が、ミャンマー舞踊「ダジャンの踊り」を披露。ミャンマーのお正月（ダジャン祭）を祝い、清め・再生・豊穡・喜びを象徴する、華やかで躍動感ある舞が会場を魅了しました！

芦屋大学の外国人留学生2名によるステージでは、まず、中国の伝統楽器「二胡」で「戦場のメリークリスマス」と「茉莉花」が奏でられました。二胡は世界平和と季節の花を愛でる曲として演奏され、続いて披露されたイスラム教の聖典コーランの詠唱は、信仰に生きる人々へ希望を与えるものとして、重厚で清澄な響きを会場に広げました。参加者は異文化の奥行きを実感するひとときとなりました。

※グローバルな教育支援を目指す、国際交流委員会事業として実施。



1 開会挨拶
シンポジウム①

2 シンポジウム②
情報交換会

学生司会

加盟校の放送部学生6名が会の進行を担いました。シンポジウムでは、緊張しつつも堂々と司会を務め、会場は温かく華やいだ雰囲気に包まれました。さらに情報交換会では、進行だけでなくレクリエーションとして「関西弁講座」を企画し、交流の場を盛り上げました。



午前中には、 2プログラムも実施！



大学事務職員のためのSDワークショップ

甲南女子大学との共催にて「大学事務職員のためのSDワークショップ」が開催され、加盟校事務職員や学生ら約40名が参加。このワークショップは甲南女子大学が進める「全員発揮型のリーダーシップ」教育と連携して実施。参加者は自らが直面する業務課題を題材に、学生アクションラーニングコーチの進行のもと、質問中心の対話を通じて課題の本質を探り、解決のための行動計画を立案しました。グループごとのセッション後には全体共有・振り返りが行われ、さらに昼食をとりながらネットワーキングの機会も設けられました。

参加者からは「『質問会議』という新たな課題解決手法を学べた」「目の前の課題の根本的な原因に気づけた」「職員同士で業務の課題について共有し、アドバイスし合える貴重な時間となった」といった声が寄せられ、日々の業務に活かせる気づきと人的ネットワークを得る有意義な機会となりました。



産・官・学でつなぐ「ライフロングキャリア」共創セッション

産官学から約50名が参加し、兵庫県における若者の県外流出と地元定着の課題を背景に、キャリア支援の可能性を探るセッションを開催しました。第1部では、発達障害やグレーゾーンの若者に焦点を当て、多様性採用と支援の在り方を共有し、ニューロダイバーシティの視点から誰もが力を発揮できる社会への理解を促進しました。第2部では、キャリアセンターによるリカレント教育の事例を紹介し、卒業後支援と地元定着、地域ブランディングへの展開を検討しました。活発な意見交換を通じて産官学の連携機運が高まり、支援モデル構築や雇用環境改善に向けた実践的ヒントが得られました。

参加者からは「発達障害やグレーゾーンへの理解が深まった」「学生のリカレントを考える機会となった」「異なる立場の意見交換が有意義だった」との声が寄せられました。



3 ポスターセッション
・パネル展示

4 分科会

5 学生の活躍

一般社団法人

大学コンソーシアムひょうご神戸

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8 兵庫国際交流会館1F
■阪神「岩屋」駅：徒歩3分 ■JR「灘」駅：徒歩6分 ■阪急「王子公園」駅：徒歩10分
<受付時間>月～金曜 9:00 - 17:00
☎078-271-0233 ☎078-271-0244
✉info@consortium-hyogo.jp



HP